

＊ ＊ 広町の森・植物だより ＊ ＊

#14 スミレづくし

2007年3月

鎌倉市七里ガ浜・角田紀之

- ＊ 春の野の花の代表“スミレ”。今回はスミレ尽くしでいきます。広町のスミレの花の写真を楽しみながら、スミレの話をお読みください。(5P、写真9)

(1) まずは懐かしい尋常小学唱歌“春の小川”

春の小川はさらさらいくよ 岸のすみれやれんげの花に
すがたやさしく色うつくしく 咲けよ咲けよとささやきながら

(大正元年1912年発表、高野辰之助作詞 岡野貞一作曲)

下線部分はもとは さらさらながる 咲いているねと だったそうです。

- ＊ 広町で見えるのは以下のようにタチツボスミレとツボスミレです。タチツボスミレが圧倒的に多く群生場所もたくさんあります。ここ数年の観察では増えているようで嬉しいことです。



タチツボスミレ 竹が谷 3/4月



ツボスミレ 御所が谷 3/4月

(2) 種類についてなるべくやさしくお話します。

* 植物の分類については大きく草本（そうほん）＝草花類 と木本（もくほん）＝樹木類に分かれ、さらによく聞く科、属、種というのをご存知でしょう。タチツボスミレはスミレ科スミレ属、種名タチツボスミレ、これは素人にもすんなりわかるでしょうが、じつはよく調べるとちょっとびっくりする話があるのです。スミレといえど我々はまず草花のスミレしか思い浮かばないですね。ところがスミレ科の植物には木本も多いのです。

* スミレ科は世界に19属約800種類あるといわれています。19属のうち草本は4属で（スミレ属、ヒバントス属、クベリウム属、デコルセラ属）あとの15属は木本です。もっともスミレ属が約400種でほぼ全種類の半分を占めている大グループであることは確かです。

* スミレ科にはハワイ諸島だけにしかない低木で、今絶滅の危機が心配されているものもあるそうです。大きいのは高さ2メートルのもあるといひます。私はそれを図鑑で見っていますが、自分のカメラで撮った写真以外は使わないことを鉄則としているのでここでお見せできないのが残念です（朝日百科：世界の植物巻 3）。ついでですが、私は数年前ワイフとハワイ 4 島めぐりをしたことがありますその時はこんなことは知りませんでした。知っていればおそらく植物園などにあるでしょうから、万障排して見てくるのですが今となっては残念です。どなたかこれからハワイ旅行に行く人、是非現物を写真にとって提供してくれませんか。学名は、イソデンドリオン・マクラーツムです。よろしく。さてここらでまた写真を。



タチツボスミレの群生

御所が谷・川沿い斜面 3/4月



(3) 名まえについて：

* 日本に自生しているのはスマレ属の多年生草本だけで約50種といわれます。自然交配による変異種も多いので正確にはわかりません。色もしばしば変化します。山と溪谷社で「日本のスマレ」という厚い図鑑もでています。

* “スマレ”の呼び名で注意を要するのは、スマレ属を意味する場合と、スマレという特定の1種を指す場合とがあります。スマレ科スマレ属の学名は**Viola** ですが、最近では園芸店を覗くとパンジー（三色スマレ）と同じような花でずっと小さい園芸種を“**Viola**”と称して売っているのでいっそう混乱します。

* “スマレ”という種、英語のヴァイオレットは広町では見かけません。藤沢の川名緑地で3月上旬に撮ったものをご紹介します。なおご存知のかたが多いとは思いますが、広町緑地買収に多大の資金援助をしてくれた“**かながわトラストみどり財団**”が、川名緑地保全にも資金援助しています。



スマレ科スマレ属スマレ

川名緑地 2007年3月中旬

花は似ていますが 葉の形が違うので見分けられます。こちらは細長い形。

タチツボスマレの葉はハート型です（下）

スマレ科スマレ属タチツボスマレ



花の裏に回ると張り出した突起があるのがスマレ属の特徴です。ここに蜜線があります。これを「距」(きょ)といいます。鶏などの足の後ろ側についている蹴爪(けつめ)を距というのでそういう名がついたといわれます。

(4) 歌のこと：万葉集には“すみれ”“つぼすみれ”あわせて4つの歌があるとのこと
とです。なんといっても一番有名なのは、山部赤人の歌、

* “春の野にすみれ摘みにと来し我ぞ野をなつかしみ一夜寝にける”

* 俳句で一つといえば芭蕉の句。“山路来てなにやらゆかしすみれ草。

* 夏目漱石の一句も捨てがたい。“堇 (すみれ) ほどの小さき人に生まれたし”
(すみれの花言葉は誠実とか謙譲とかいわれています)

* おばさんやおじん！失礼言い直し、お年寄りのご婦人や男性の方にはまず宝塚の歌、“すみれの花咲く頃”が浮かぶ人も多いでしょう。私は出ただけ
でうる覚えなので調べてみました。(白井鉄造訳詞、フランツ・デーレ作曲)

“すみれの花咲く頃 初めて君を知りぬ 君を思い ひごとよごと
悩みしあの日の頃 すみれの花咲く頃

今も心ふるう 忘れな君 我らの恋 すみれの花咲く頃 “

* この歌は昭和4年 **1929**年、宝塚少女歌劇月組のレビュー「パリセット」の
主題歌でヒットしたそうですが、白井鉄造が外遊した折ヨーロッパはやって
おり、それを日本に導入したものだそうです。元の歌はドイツでスマイレでは
なく“ニワトコの花咲く頃”だったのが、フランスでは“白いリラの花咲く
頃”となり、白井鉄造が日本語訳詩で“すみれの花咲く頃”としたそうです。
ところ変われば品変わるの典型みたいで面白いですね。

* ニワトコはスイカズラ科の落葉中低木で広町にも数箇所があり、4月ごろ真
っ白のきれいな花をつけます。春になると枯れたような枝に若葉が勢いよく
吹き出て、いち早く春の到来を感じさせます。



ニワトコの花 小竹が谷 4月

- (5) なぞの生態：ありふれたとも言ふべきスマレですが、実はまだ良く解明されていないことも多いのです。タチツボスマレはじめ多くのスマレ属は早春に綺麗な花をつけます。蜜を持っており虫媒花（虫により受粉が行われる）ということになっていますが、花のあと実をつけることはほとんどありません。その代わり夏以降になると葉が大きくなりその脇に“閉鎖化”という閉じたままで開かない花をつけます。（下の写真、広町竹が谷 5/6月）

この花は文字通り開かず、虫の世話にもならず、自家受粉してタネをつけます。スマレは多年草ですから、根でも増えタネでも増えます。多くの植物はこのようにもしものときの保険で、子孫を残す手段を2つ以上持っています。



- * だったら春に一生懸命精力を使ってわざわざ綺麗な花を咲かせるのは何のため?? やめたほうがいいんじゃないの。人間を喜ばすため? まさかそんな?? 「牧野富太郎植物記」にも、“普通のスマレの花は実を結ばないむだ花なのです” “これはまことに理解に苦しむふしぎなことといわなければなりません”と書いてあります。われわれの科学的思考は自然には無駄はなく、現象には必ず合理的な理由があるという前提に立っています。おそらく人間にわからないことはまだいっぱいあるのです。それと我々はせいぜい数百年数千年の単位でものを考えていますが、地球の座標は数万年数千万年数億年単位なので、大きな進化の途中なのかも知れないと素人考えで想像しています。
 - * スマレに関しては 名まえの由来とか、山菜・薬草としての効用、アリが種を巣に運ぶとか、ナポレオンとジョセフィーヌがことのほか愛し軍団の印にしたとか 耳寄りな話がまだまだたくさんありますが、あまり長くなると何ですから、このくらいにします。
- <追記> 前回の広町植物だより #13で、通称“石切り場”のことを書きました。私の旧友に地質学の大学教授がいて現場を見て鑑定してもらいました。彼の見解では、明らかに人為的なもので、ああいう形状は自然ではまずありえない。古い石切り場であろうとのこと。恒常的に石を切り出していたかどうかはわからないが何らかの使用目的で石を切り出したのだらうとのこと。 “石切り場がやっぱり石切り場だったとは感激です”と広町の仲間が言いました。同感。（終わり）